

公共施設の在り方・再編の検討の進め方について

1 趣旨

令和８年３月に策定した「小金井市公共施設在り方・再編方針」に基づき、公共施設の再編に向けた具体的な検討を開始する。本検討は、「小金井市公共施設等総合管理計画」が掲げる「将来の人口動向に合わせた施設総量の抑制」及び「将来更新費用・維持管理費の縮減」という基本目標を堅持しつつ、市民サービスの維持・向上及び持続可能な公共サービスの実現を図ることを目的とする。

2 基本的な考え方

(1) 「６つのビジョン」の共有

再編に当たっては、総量抑制、将来更新費用及び維持管理費の縮減の目標を踏まえながら、単なる建物の更新にとどまらず、多世代交流、地域防災など、本市が目指すべき「これからの公共施設が目指す６つのビジョン」を実現するための機能再編を目指す。

(2) ２つの視点によるエリア設定

日常生活圏としての「地域コミュニティエリア（５エリア）」と、市内外から人が集まる「交流・創造の拠点」の２つの視点を組み合わせて検討する。

(3) 学校施設

延床面積の約６割を占める学校施設の更新時期を契機とし、周辺施設との集約・複合化を地域の実情に応じて検討する。

(4) 「エリア最適化」に焦点を当てた検討

施設類型ごとの個別更新（個別対応）ではなく、地域全体で必要な機能を整理し、配置及び規模の適正化を図る「エリア最適化」の視点から検討を行う。検討に当たっては、「学校施設長寿命化計画改定版（令和８年３月）」において、令和９年度から小金井第三小学校及び小金井第一中

学校の構想・設計に入るとされていることを踏まえ、北西エリア及び北東エリアから検討する。

3 検討単位及び優先順位

(1) 検討単位

市内公立中学校区を基本とした5エリア

(2) 検討順位

建て替え等の構想が開始される小金井第三小学校及び小金井第一中学校が属する北西エリア、北東エリア及び市外施設を先行する。続いて小金井第二中学校の建て替え等の検討時期を見据え、南エリアを検討後、南西エリア及び南東エリアの順に検討を行う。

検討順	エリア名	エリア範囲
1	北西エリア	第一中学校区
	北東エリア	緑中学校区
	市外施設	市外
2	南エリア	第二中学校区
3	南西エリア	南中学校区
	南東エリア	東中学校区

4 想定スケジュール

年度	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)
北西・北東エリア 市外施設	・施設類型ごとの課題対応 ・エリア最適化の決定		市民参加	事業性の 検証				
南エリア			・施設類型ごとの課題対応 ・エリア最適化の決定		市民参加	事業性の 検証		
南西・南東エリア					・施設類型ごとの課題対応 ・エリア最適化の決定		市民参加	事業性の 検証

(1) 施設類型ごとの課題対応（庁内検討）

施設カルテ等を活用し、老朽化状況、維持管理・整備コスト及び利用実態を把握する。小金井市公共施設等総合管理計画の施設評価手法（ソフト・ハード両面）に基づき、各施設の在り方を再定義する。

(2) エリアとしての全体最適化（庁内検討）

エリア内の必要機能、各施設の役割分担及び集約・複合化の可能性を検討する。「エリア最適化」の視点から、公共施設再編の方向性（案）を整理する。

(3) 市民参加による検討の深化

ワークショップ、アンケート等を通じて地域ニーズ及び利用者目線の課題を把握し、エリアの方向性（案）に反映させる。

(4) 実現に向けた事業性の検証

事業コストの検証、財政負担の平準化、PPP／PFI等の官民連携手法の活用可能性を検討し、実現可能な基本構想として取りまとめる。

(5) 段階的な検討と柔軟な見直し

社会情勢の変化及び市民ニーズの動向を踏まえ、継続的な検討及び改善を重ねながら段階的に再編を進める。